
SSニュースター

発行：日本アッセンブリーズ・
オブ・ゴッド教団
日曜学校部
第3号
2003年10月

収穫の時

日曜学校部部長 綾部裕子

『今、私はあなたが神の人であり、あなたの口にある主のことばが真実であることを
しりました。』
(列王記17:24)

教会で催す子ども会のチラシを小学校の校門の前で配ると、「ボクもらってない。」とか、「わたしにも。」とか「もう1枚ちょうだい。」と言ってまとわりついてくる子どもの姿は今は見られなくなってきました。チラシは見向きもされず、どんなに頑張っても教会の行事に子どもを集めることがむずかしくなっている地域が多いと思います。特別な趣向をこらしたり、子どもを引きつけるプログラムにも限りがあり、またその人材や予算にも限りがあります。日曜学校の生徒が友だちを連れてくることも、まれになってきました。

不登校のこどもが数十万人にも及び、凶悪犯罪の低年齢化、また精神を病む子どもたちの増加など、教会が果たさなくてはならない課題が深刻になってきています。このような時代に、天の窓が閉ざされ雨が降らないような霊的飢饉状態にいるような行き詰った思いを抱いておられる日曜学校教師の方々もおられることと思います。

子どもに対してであれ大人相手であれ、宣教の働きは聖霊によるものです。わたしたちは切に子どもたちをイエスさまに導きたいと願っていますが、主ご自身が誰よりも若い魂の救いに対しての切なる思いを持っておられることを知る必要があります。飢饉状態を嘆くよりも、なぜそのような状態に置かれているのかを悟ることが大切です。

20世紀初頭にカンザス州トペカから世界中に広がった聖霊の働きが、21世紀に今まで歴史上類を見ないほどの規模で大宣教命令を遂行させるために、拡大しようとしています。わたしたちは神のこばを正しく伝える責務があります。そのためには聖霊の働きが不可欠です。聖霊を受ける目的は、単に異言で語るだけではなく、御霊の深い思いを知り、聖霊の力すなわち愛に満たされて宣教するためです。人間の力、人間の方法でそれなりの結果を得ることはできるでしょうが、神さまのなさることに比べると天地の開きがあります。

日本全体を福音化するために、神さまが完全なご計画を持っておられます。御霊の賜物が現され、御霊の実が実り、み言葉に伴うしと不思議が起こされる宣教を主は用意しておられます。わたしたちが宣教する時に、いたるところで、『今、私はあなたが神の人であり、あなたの口にある主のこばが真実であることをしりました。』(列王記17:24)という言葉が聞かれるように、わたしたちの口から真実な主のこばが語られなくてはなりません。そのためにわたしたちが全能なる神さまのみ心を知り、み声を聞く必要があります。20世紀初頭の聖霊の傾注はそのためのものでした。21世紀にそれがさらに大傾注となり、旧新約聖書にある神さまのすべての約束が完成される時になります。キリストの身体である教会が本来の姿となり、キリストの花嫁としての姿を現わす時になります。

日曜学校教師の一人ひとりが聖霊に満たされ、神のみ言葉によって考え、み言葉によって生き、み言葉を行う人になっていく時に、聖霊が働かれて、上よりの力に満ちた証人となり、魂をキリストに勝ち取るができるのです。

宣教の働きに、聖霊に満たされた人が神さまと共に働いていく、人間の側の働きも同時に必要です。どのように困難に見えても、各々の教会の与えられているものをもって最大限の働きをしていく時に、閉ざされているように見える道が開けてきます。たとえ人数が少なくても働き人がキリストの身体としてひとつの思いとなり、力を合わせていく時、動かないと思える大きな岩をも動かしていくことができるのです。

モーセがカナン征服にあたった時に、斥候を遣わしたように、今の時代の子どもたちの状況を知る必要があります。現在の状況を少しでも良い状況に変えていく人為的な面が同時に必要なのです。子どもへの宣教が可能であると信じて、与えられている状況の中で、少しでも事態を好転させていく信仰の行動を求められています。日曜学校部では、日本の国内外においてそのような働きを進めて、子どもを弟子として育てている教会の情報を提供していきたいと願っています。また教会間の助け合いがなされ、キリストの一つの身体となれるように祈っています。

舟の右側に網をおろした弟子たちのように、今までできなかったことが可能になります。聖霊のダイナミックな力に与かり、与えられた力、状況を最大限に用いて、愛によって宣教していく者となっていきましょう。

「こども会と親子サークル」

富山キリスト教会 佐野兼司

私たちの教会は富山県富山市にある小さな教会です。人数は牧師家族4人と教会メンバー4人の計8人。できることは限られていますが、ゆっくりマイペース、地道にコツコツ、楽しみながら伝道しています。

教会は住宅地にありますが、近所のこどもたちが教会に来るということはまずありません。町内には公園もありますが、遊んでいるこどもはほとんどいません。日曜学校、教会学校が成立しない状況です。

牧師夫人が外で働いている関係で、未信者との接点をもつことができ、子育て中のお母さんたちをお誘いしての集会ができるようになりました。数年前から「こども会」を、半年ほど前から「親子サークル」をしています。奉仕者は牧師夫婦。教会メンバーが時々手伝ってくれます。

こども会は月一回で、日曜の午後に行っています。入れ替わりがあるものの、小学生以下のこどもとそのお母さんが毎月8組20人ほど集まります。ゲーム、聖書のお話、工作、おやつタイムと、どこのこども会でもしているような内容です。

親子サークルは、やはり月一回、第三木曜日の午前に開いています。こちらには、

就学前の乳幼児を連れてお母さんが4組ほど集まります。



こども会も親子サークルも本当は毎週にしたいのですが、奉仕者が得られない現状ではこれが精一杯。教会の成長に伴って、働きも拡大させていけたらいいなと思っています。

こども会や親子サークルもそうですが、ピクニック、バーベキュー、コンサート、映画会など、親子いっしょ家族ぐるみの集会を企画するようにしています。最近はレギュラーの参加者が、別の親子を誘って来てくれるようになりました。少しずつですが、伝道の輪が広がっていることは本当にうれしいことです。

今こそ確かな信仰の継承を

伊豆仁田キリスト教会 森田 聡

日曜学校の生徒の減少に心が痛みます。しかし私たちはクリスチャンホームの子どもたちに注がれている神様の恵みに心を留めていきたいものです。

伊豆仁田キリスト教会では、少数ですがクリスチャンホームの子どもたちが大人の礼拝に参加しています。礼拝中にお父さんのギターに合わせて、お母さんと子どもたちが手話で賛美をする時間を組み入れています。OHP も子どもたちは自分の役割として自発的に受け持つことができます。

メッセージの時間になると別室に移動して子どもたちだけの礼拝をします。年齢差のある兄妹、男の子、女の子も、ひとつのファミリーとしてみことばを学んでいます。お兄ちゃんが妹の面倒を自然にみるように、みんなで助け合いながら楽しく学んでいます。日曜学校では『成長』の教案誌とワークブックを使用していますが、カリキュラムが統一されていて、子どもたちはそれらを通して楽しく学ぶことができます。また、この時間に、繰り返し繰り返し手話でみことばの賛美をすることで、子どもたちの魂にみことばが植え付けられています。クリスマス礼拝では、1年を通して学んだみことばの手話を使って主を賛美し、イエス様のご降誕をお祝いします。

この奉仕を支えているのは、子どもたちに最も身近な存在であり、彼らの性格がよくわかる父親や母親を中心とした5名の教師です。親も子どもたちの前に立たされると、信仰の襟を正されます。親が主と結ばれて救いの恵みを深く味わうことこそ、子どもたちの大きな祝福となります。

「今日の先生は〇〇ちゃんのお父さんだよ！」

毎週違う先生からお話を聞く子どもたちは、すばらしい恵みを受けることができます。幼いときからみことばの養いを受けた子どもたちは、大学生となり、また社会人となった今も、それぞれ遣わされたところで教会につながり、友人にそして教会学校の子どもたちに、自分たちが受けた恵みを分かち合うものとして用いられています。ひとりでも、ふたりでも、クリスチャンホームの子どもたちが幼い時から、親と共に教会につながり、みことばの養いを受けて、成長できるように、そして地域社会の中において、彼らの生活を通して、キリストの真実の証人として用いられるように、祈りつつ励んでいます。

テモテの純粋な信仰は祖母のロイスから母のユニケに、母のユニケからさらにテモテへと受け継がれました。そのように主の救いを受けた親たちが真の礼拝者とされて、子どもたちにさらに孫へと信仰の継承が確実になされることが日本の福音宣教の鍵であると信じています。そのためにひとりひとりの子どもたちを大切にしています。

「私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主の業に励みなさい。あなた方は自分たちの労苦が、主にあって無駄でないことを知っているのですから」(1コリント15:58)

子ども伝道

堺キリスト教会 玉川 吉昭

堺キリスト教会における、子ども伝道の一環である「JDクラブ」の働きを紹介させていただきます。

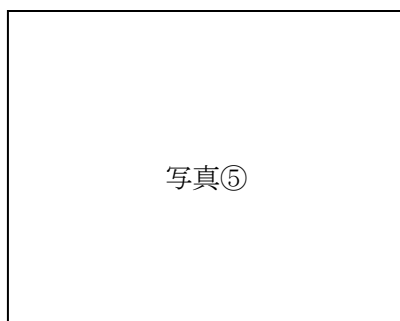
私共の教会では、1994年6月より毎月第二土曜日の午前9時より1時間半から2時間、小学生を対象とした集会を持っています。当初は「土曜学校」と読んでいましたが、子どもたちに、小学校に通っている上に教会の学校にも行くというイメージを持ってもらいたくないため、「JDクラブ」という名称にし、今日に至っています。



写真③

1994年度の平均出席者数は50名、1995年の平均出席者数は40名で、それ以降は多い時で45名、少ない時で20名程度の出席者があります。子どもたちの大半は、堺キリスト教会が位置する錦綾校区に一つある、錦綾小学校前で配られるチラシ、及び一度来た子どもに毎月送付される案内はがきを見てやってまいります。これまでの9年間で「JDクラブ」の名簿に記されている数は300名です（一名簿に記されなかった子もいます）。錦綾小学校の生徒数は平成13年度で353名、平成14年度で334名ですから、単純計算をして一学年60名とすると、錦綾小学校の在籍生徒数は9年間で900名となります。ということは、錦綾小学校の3人に1人は「JDクラブ」に来た計算になります。

「JDクラブ」に出席する子の95%以上は、毎週の子ども礼拝（＝日曜学校）に來ていない子どもたちです。これを積極的に受け取るなら、全く教会に來たことのない子どもたちとの繋がりとなっているということです。消極的に受け取るなら、「JDクラブ」に來ている子どもたちが、教会の子ども礼拝には繋がっていないということです。しかし教会の一般礼拝や伝道會に來會する方の多くは、かつて子どもの時に教会學校に行つたことのある人なので（→私の見聞きする限りにおいて）、年少層（0～14歳）への福音の種まきは、生産年齢層（15～64歳）、及び老年層（65歳以上）における収穫に繋がると考えています。現在の課題は「JDクラブ」に來た子どもたちを、どのようにして主イエス様の救いに導くかということです。



次に「JDクラブ」の内容を紹介します。チラシには毎回の目玉となる内容を記します。当初は映画会が多かったですが、その後は季節や時期に合わせて、ドッチボール大会（→近くの公園を使用）、キックベースボール大会、ビーチバレーボール大会、運動会、かるた大会、バレンタインチョコ作り、イースターエッグ作り、母の日プレゼント作り、父の日プレゼント作り、リサイクル工作教室、ゲーム大会、子どもボーリング大会、子どもクッキング、たこ焼き作り、スライム作り、キャンドル作り、ハンカチの紅茶染め、英会話の先生を招いて「英語で話してみよう」等々、思いつく限りいろいろと企画しています。「JDクラブ」は教会外の子どもとの接点になっていますから、子どもたちが飽きずに楽しむことができるように努力しています（→なかなかたいへんです）。当日は、先ず午前9時から30分間、礼拝の時を持ちます。賛美があり、聖書のお話があり、お祈りがあります。その後、1時間から1時間半、目玉となるイベントをします。内容によって男の子が多かったり、女の子が多かったりです。現在は来ている子どもたちの90%はリピーターであり、来たことのある子どもたちの17%が兄弟姉妹を連れてきています。

限られた奉仕者（→全体で8名、当日の奉仕者は4名）で運営しているため、企画実行する内容に行き詰まりを感じますが、実が結ばれることを信じて、聖霊様に助けをいただきつつ、これからも続けて行きます。

報告を送って下さった教会に心からお礼を申し上げます。今後さらに多くの情報を提供していきたいと思いますので、各教会からの報告やアイデアをSS部にお送り下さると幸いです。

日本の子どもたちの救いを祈り、各教会のSSの働きのために祈ります。

教育局長・SS部長：高口喜美男　SS部：藤井敬朗　綾部裕子　和田佳士